



チーム医療とは、医師をはじめとするメディカルスタッフ（医療専門職）が、患者とともに、それぞれの専門性をもとに高い知識と技術を発揮し、互いに理解し目的と情報を共有して連携・補完し合い、その人らしい生活を実現するための医療を意味します。チーム医療は、近年、大きな注目を集めており、多くの医療機関が導入しています。碧南市民病院でも様々なメディカルスタッフで構成されたNST（栄養サポートチーム）やICT（感染対策チーム）など、多くのチームを組織しています。

また、チーム医療を推進し、看護師が自身の役割をさらに発揮するため、国は「特定行為研修制度」を設立しました。今回は、この特定行為研修制度について、碧南市民病院における看護師の取り組みを紹介します。



チーム医療の推進を目指して

～特定行為研修制度～

問 市民病院医事経営課 ☎ 48-5050



特定行為研修制度とは

医師や歯科医師の判断を待たずに、手順書により、特定行為と呼ばれる一定の診療補助（例えば、脱水時の点滴など）を行う看護師を養成し確保する制度です。2015年から制度が始まり、2022年3月時点で約4,800人の看護師が研修を修了しています。碧南市民病院には特定行為を行うことができる看護師が2人在籍しています。

かわかみ みやこ

川上 都（看護師の免許取得後21年目）

私は「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」、「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」という2つの特定行為区分を修了しています。

高齢の方は、普段から身体の状態が悪くなったり、手術によるストレスでせん妄^{*}や認知症患者の行動・心理症状がみられたり、混乱や生活リズムが崩れてしまうことがあります。せん妄などの治療薬の中には、副反応として眠り過ぎてしまう、飲み込む力が弱くなる、身体の動きが硬くなるものがあります。患者さんの中にはこういった薬による過敏症のある疾患を患っている方もいるため、薬の内容や量に注意が必要です。現在は、高齢者サポートチームへの相談や所属病棟の患者さんを中心に、特定行為を行っています。医師の指示に従って薬を使っている場合でも、副反応がみられるときには、別の薬を提案したり、医師の指示による手順書に沿って薬を減量・中止したり、副反応後に併発する肺炎や転んでけがをするリスクを減らしています。まだ自信がない部分は医師に相談しながら行っていますが、さらに経験を積みスムーズな治療・退院につながるよう貢献していきたいと考えています。

※意識混濁に加えて奇妙で脅迫的な思考や幻覚・錯覚が見られるような状態

ひらの ともみ

平野 友美（看護師の免許取得後17年目）

私は「呼吸器関連」、「動脈血ガス分析関連」、「術後疼痛管理関連」、「循環動態に係る薬剤投与関連」、「栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連」という5つの特定行為区分を修了しています。

全身麻酔の手術では、手術の進行状況や患者さんの変化に合わせて人工呼吸器の設定調整や鎮静剤の投与量の変更を行っていきます。

既往歴や手術内容、患者さんの身体状況によって血圧を厳密に管理する必要があるときは、動脈に針を刺して血圧をリアルタイムで把握できる処置をします。

手術後にも痛みの評価をして麻酔の投与量の調整を行い、術後の苦痛の軽減を図っていきます。

患者さんの重症化予防のために、異常の早期発見や痛みの緩和に尽力し、必要な処置を必要な時に行うことで、入院生活が安全かつ安心して過ごせるよう努めていきます。

医師より 特定行為研修を修了された看護師へ

看護師の担当できる業務の幅が広がったため、私たち麻酔科の分野においても指示を待つだけでなく、積極的に意見を述べて自発的に業務に取り組んでいただけるようになりました。山積みになっていた課題にも嬉々として取り組むことができ、スタッフ間の一体感が以前にも増して強くなったように感じます。

麻酔科医師 こんどう ひろこ
近藤 博子



1 せん妄の患者さんの薬について相談している様子



2 患者さんに麻酔の説明をしている様子